

ほんよも

No. 007



桂陽高校図書室キャラクター
「ほんよも」



読書の秋（冬）到来です！

11月になりました。読書の秋……と言うにはかなり寒くなってきましたが、雪に閉ざされてろくに外出できない北海道は、冬も読書に最適な季節です。ぜひ、図書室に足を運んでみてください。

【図書室トピックス①】

最近、図書室前に「先生方のオススメ」というものを掲示しています。まずは国語科の3人の先生が本を紹介していますが、そのうち色々な先生方が増える予定です。



【図書室トピックス②】

突然ですが「たくさん本を借りている人ランキングベスト3」を発表します。

第1位：24冊 石垣真綾弥くん（1A）

第2位：23冊 斉藤 将馬くん（1A）

第3位：21冊 堀川 琴里さん（1B）

3人とも1年生！ これからもたくさん読んでください。

【図書室トピックス③】

図書室には朝日新聞が入っています。試験的に**新聞スクラップ集**を作り始めました。まずは医療に関する記事を集めて貼り付けています。小論文などの参考資料として役立ててください。今後、軌道に乗れば収集する記事の分野を増やします。



～大人も夢中になれる中華風異世界ファンタジー～

『十二国記シリーズ』 小野不由美

内容・あらすじ

我々の世界とは別なところ（異次元?）にある異世界・「十二国」が舞台です。たまに「蝕」と呼ばれる現象によって、こちらの世界の人間が向こうにまぎれこんでしまうこともあります。

この異世界にある十二の国は、それぞれの王が治めています。麒麟と呼ばれる霊獣が直感で王を選び、王が国を治め、麒麟がその補佐をします。王が非道な政治を行うと麒麟は病み、やがて王も死んでしまいます。

十二の国は、それぞれ気候風土や政治体制、豊かさなどが全く違います。王の力量やキャラクターもさまざま。安定している国は同じ王が何百年も統治していますし、そうかと思えばコロコロと王が変わっている不安定な国もあります。

それぞれの国で生きている王や麒麟や臣下や民たちの姿を描く、壮大なスケールの物語が『十二国記』シリーズです。



川口先生の感想

これからこの作品を読める人は幸せです。私は去年の年末、この十二国記全巻をぶっ通して約1ヶ月間、ずっと読んでいました。「十二国」の世界に浸りっきりで、とても濃密で幸せな時間を過ごしました。おかげで現実世界に戻ってくるのが大変でした。

「これって知らないだけで本当にある世界なのでは?」と思うくらいに設定が緻密でしっかりしていて、物語に深く入り込めます。完全な異世界ではなく、我々の世界ともつながっている点も、物語を親しみやすくしているポイントです。中には、一冊ほぼ丸ごとこちらの世界が舞台、という巻もあります。

巻ごとに異なる国が描かれていて、各国の王や麒麟たちが集まるオールスター編の巻もあります。長大なシリーズならではの醍醐味を味わえます。きっとひいきの国やキャラクターが見つかることでしょう。

この十二国記、人間の苦悩がしっかり描かれているという点もいいところです。異世界といえども我々と一緒に、民はもちろん、王も麒麟も家臣たちもみんなそれぞれの立場で必死に生きています。彼らの生きる姿や言葉から生きるヒントをもらえることもしばしば。

「どっちを選んでいいかわからないときは、自分がやるべきほうを選んでおくんだ。そういうときはどっちを選んでも必ずあとで後悔する。同じ後悔するなら、少しでも軽いほうがいいだろ」（十二国記1『月の影 影の海』より）

いいことを言う！これなんか進路選択の時に参考になりそうなセリフです。

昨年、久しぶりに続編が出てかなり話題になりました。図書室には全巻そろっているのでぜひ！